東郷遺跡

－江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う発掘調査報告書－

2024年1月

公益財団法人　和歌山県文化財センター

1　1 区完掘（西から）

2　2区完掘（西から）

序

東郷遺跡が所在する日高郡日高川町は和歌山県中部に位置し、平成17年に旧川辺町、美山村、中津村が合併して発足しました。西は御坊市、日高郡日高町、北は有田郡広川町、有田川町、東は田辺市、南は日高郡印南町と接しています。県内第３位の面積を有しており、古くから果樹栽培や林業が盛んであり、特に備長炭の生産は日本一を誇っています。

東郷遺跡は日高川町と隣接市である御坊市の境界に位置する遺跡で、遺跡の大半は御坊市側に所在します。主に弥生時代の集落跡として知られた遺跡で、これまでの発掘調査によって弥生時代中期から古墳時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡、溝、土坑などの遺構が確認され、弥生土器や土師器、須恵器などの遺物が多数出土しています。

今回の調査は、江川小松原線通学路緊急対策事業に先立って発掘調査を実施したものであり、その成果をまとめ発掘調査報告書として刊行いたします。

本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導・ご協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

令和６年１月３１日

公益財団法人　和歌山県文化財センター

理事長　櫻　井　敏　雄

例　　言

1　本書は和歌山県日高郡日高川町土生に所在する東郷遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、江川小松原線通学路緊急対策事業に伴うもので、令和４・５年度に発掘調査を実施し、令和５年度に出土遺物整理を実施した。

3　発掘調査及び出土遺物等整理業務は、和歌山県の委託を受け和歌山県教育委員会指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。

4　発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は下記の通りである。

事務局長（管理課長兼務）　　平林　照浩
埋蔵文化財課長　　髙橋　智也
発掘調査・出土遺物等整理業務　　田之上　裕子、濵﨑　範子

5　本書の編集・執筆、遺構及び遺物写真の撮影は田之上、濵﨑が行った。

6　出土遺物整理に際し、下記の関係諸機関よりご協力･ご教示を得た。記して感謝の意を表す。（氏名五十音順）

御坊市教育委員会・日高川町教育委員会

7　本事業の遂行にあたり、地元自治会、地域住民の方々から多大なご協力を頂いた。ここにあらためて感謝の意を表する。

8　出土遺物は和歌山県教育委員会が保管し、発掘調査及び出土遺物等整理業務において作成した実測図やデジタルデータ、台帳及び写真等の記録資料は公益財団法人和歌山県文化財センターが保管している。

凡　　例

1　遺構等の土層について記載した土色及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本彩色研究所監修『新版標準土色帖』（2016 年版）に基づいて記録した。

2　発掘調査及び出土遺物等整理作業は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編)』（2006．4）に準拠して行った。

3　調査ならびに本書で使用した座標値は、平面直角座標系（平成 14 年国土交通省公告第９号）第Ⅵ系世界測地系のもので、値はｍ単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北で、標高は東京湾標準潮位（T.P+）の数値である。

4　調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲し、遺構番号は調査区に関係なく１からの通し番号である。

5　遺物実測図版の縮尺は、原則として 1/4 とし、土製品･鉄器類に関しては 1/2 とした。また、遺物写真の縮尺については特に統一していない。

6　調査で使用した調査コードは、「調査年度下２桁・市町村コードー遺跡番号」で以下の通りである。出土遺物・記録類はこの調査コードを用い、管理している。

22 － 28・041（2022 年度－日高川町（旧川辺町）・東郷遺跡）

目　　次

本文目次
巻頭図版
序・例言・凡例
第１章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　地理的環境と歴史的環境 …… 1
　第２節　既往の調査 …… 2
第２章　調査の経緯と経過 …… 4
　第１節　調査の経緯 …… 4
　第２節　発掘調査 …… 4
　　１．発掘調査 …… 4
　　２．現地公開 …… 5
　第３節　出土遺物等整理 …… 5
　　１．出土遺物応急整理 …… 5
　　２．出土遺物等整理 …… 5
第３章　調査方法 …… 6
　第１節　地区割 …… 6
　第２節　調査現場の記録作業等 …… 6
第４章　調査の成果 …… 10
　第１節　調査概要 …… 10
　第２節　基本層序 …… 10
　第３節　遺構と遺物 …… 12
第５章　まとめ …… 17

挿図目次

図１　東郷遺跡周辺の遺跡 …… 2
図２　既往調査位置図 …… 3
図３　地区割図 …… 6
図４　遺構配置図 …… ７・８
図５　基本層序 …… 10
図６　１・２区土層断面図 …… 11
図７　土坑実測図１ …… 13
図８　土坑実測図２ …… 14
図９　柱穴実測図 …… 14
図 10　下層確認トレンチ土層断面図 …… 14
図 11　溝実測図 …… 15
図 12　出土遺物 …… 16

表目次

表１　遺構一覧表 …… 9
表２　出土遺物観察表（土器・土製品）…… 18
表３　出土遺物観察表（金属製品）…… 18

写真図版目次

写真図版１　１　１区調査前（東から）
２　２区調査前（北西から）
３　32 土坑土層断面（北から）
写真図版２　１　32 土坑周辺完掘状況（南西から）
２　101 土坑土層断面（西から）
３　102 土坑土層断面（東から）
写真図版３　１　101・102 土坑完掘状況（北から）
２　121 土坑土層断面（北から）
３　121 土坑完掘状況（北西から）
写真図版４　１　138 土坑土層断面（南西から）
２　138 土坑完掘状況（西から）
３　14 溝土層断面（南から）
写真図版５　１　14 溝完掘状況（南から）
２　139 溝土層断面（南から）
３　139 溝完掘状況（西から）
写真図版６　１　83・85 溝土層断面（北から）
２　105 溝土層断面（南から）
３　106 溝土層断面（南西から）
写真図版７　１　105・106 溝完掘状況（北西から）
２　49 柱穴土層断面（北西から）
３　２区下層確認トレンチ土層断面（南西から）
写真図版８　出土遺物（１）
写真図版９　出土遺物（２）

第１章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境と歴史的環境（図１）

東郷遺跡が所在する日高郡日高川町は、和歌山県中央部にある日高平野と平野を流れる日高川の中～下流域に位置しており、平成 17 年に旧川辺町、美山村、中津村が合併して発足した。西は御坊市、日高郡日高町、北は有田郡広川町、有田川町、東は田辺市、南は日高郡印南町と接しており、331.59 ㎢という県内第３位の面積を有する。古くから果樹栽培や林業が盛んであり、特に備長炭の生産は日本一を誇る。

日高川町には東西に流れる日高川の浸食によって形成された河岸段丘が多くみられ、また日高川より北部は白馬山脈、南部は真妻山脈それぞれによって形成される山地が面積の大半を占める。東郷遺跡の付近は日高平野に属する沖積平野部であり、西に隣接する御坊市に所在する遺跡も併せて、周囲には多くの遺跡が所在することから古くから日高川を中心とした物流や人の活発な行き来を想定することができる。

東郷遺跡は御坊市と日高川町にまたがって位置する遺跡で、日高川の北岸にある微高地上に立地し、遺跡の大半は御坊市に所在する。調査地周辺は、現状では北及び東に向かって上がる緩やかな傾斜地となっており、水田耕作地や住宅地が広がっている。

【旧石器時代】東郷遺跡周辺ではないが、日高川町内では松瀬遺跡から石核や剥片が出土している。

【縄文時代】東郷遺跡周辺では当該時期の遺跡は確認されていないが、日高川町内の遺跡として和佐遺跡、入野遺跡や石浦遺跡から縄文土器や石器が出土しており、御坊市では小松原Ⅰ遺跡、小松原Ⅱ遺跡が当該時期の遺跡として知られる。

【弥生時代】日高平野ではこれまで７個の銅鐸が出土しているが、東郷遺跡の周辺では（15）．亀山銅鐸出土地から扁平鈕式銅鐸３個、（24）．小松原Ⅱ遺跡付近で外縁付鈕式銅鐸１個、５．鐘巻銅鐸出土地から突線鈕式銅鐸が１個出土している。また、周辺には弥生時代中期から後期とみられる高地性集落である（17）．亀山遺跡のほか、２．箱谷遺跡、（23）．小松原Ⅰ遺跡、（27）．蛭田坪遺跡、（21）．富安Ⅰ遺跡、（22）．津井切遺跡などから当該時期の遺構や遺物が確認されている。

【古墳時代】古墳時代の集落については、東郷遺跡の北に位置する７．土生Ａ遺跡では古墳時代初めとみられる土師器が採集されているほか、東郷遺跡、富安Ⅰ遺跡、津井切遺跡、小松原Ⅱ遺跡、蛭田坪遺跡などで竪穴建物跡が確認されている。古墳時代後期になると道成寺の北に位置する１．箱谷古墳群では、横穴式石室を埋葬主体とする円墳である３号墳（円墳）に鉄製鍛冶具や鉄鐸といった渡来系文物が副葬され、また、15．吹上古墳群が築かれる。御坊市側では道成寺西に位置する（20）．八幡山古墳群や竪穴式石室・横穴式石室を埋葬主体とする（19）．亀山古墳群が築かれている。古墳以外では、東郷遺跡の東に位置する９．法徳寺遺跡で古墳時代とみられる滑石製の祭祀遺物などが出土している。

【古代】道成寺は大宝元年（701 年）の創建と伝えられており、出土した瓦からも創建は白鳳時代に遡ると考えられ、現在まで続く日高地方の古刹である。古代の日高郡衙は御坊市堅田に所在する堅田遺跡から現在の JR 御坊駅周辺にある（24）．小松原Ⅱ遺跡に移動したことが発掘調査の成果から明らかとなっている。また小松原Ⅱ遺跡から道成寺創建瓦と同氾瓦や古代瓦が出土している

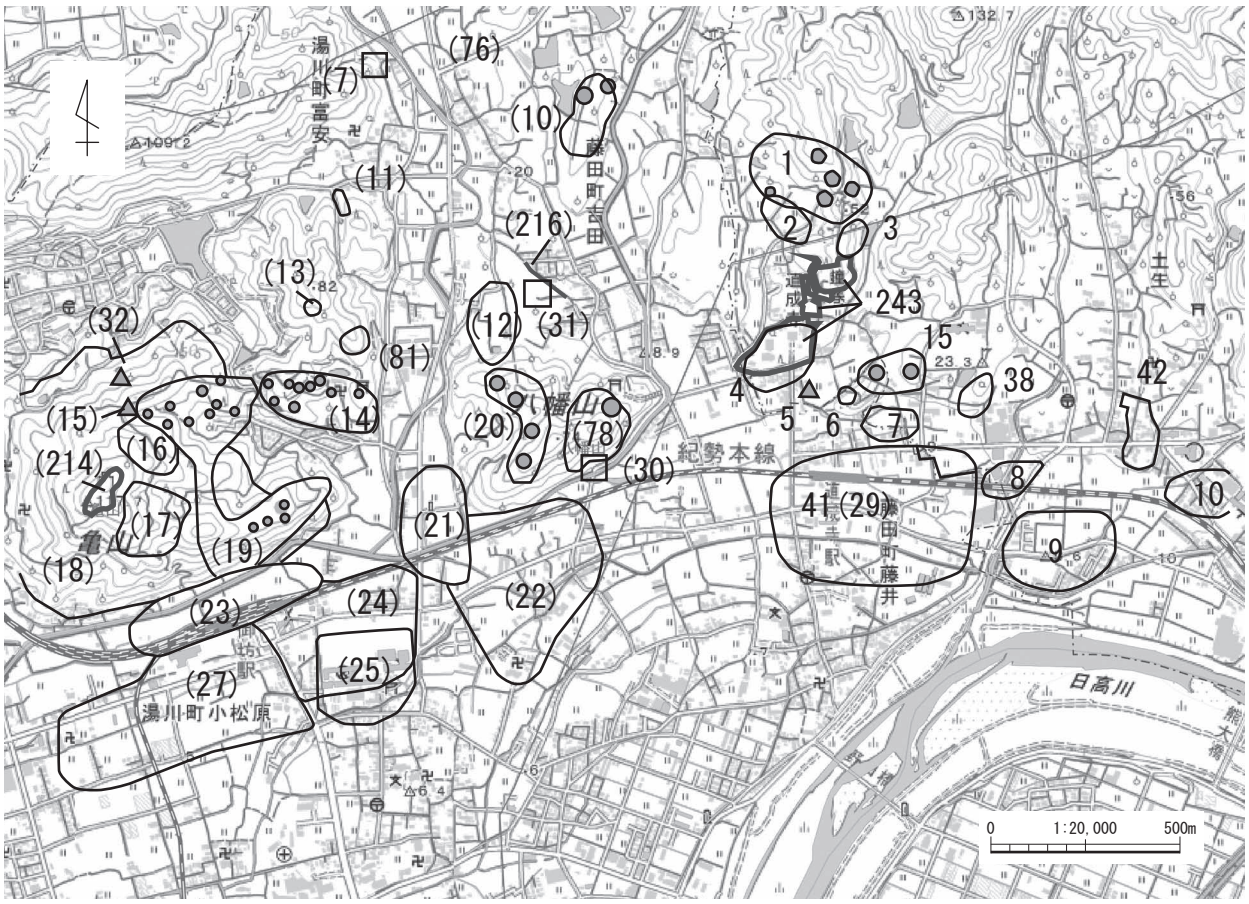


図１　東郷遺跡周辺の遺跡

※番号は和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図による
　和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図（https://wakayamaken.geocloud.jp/mp/4）

【日高川町】
　１．箱谷古墳群　２．箱谷遺跡　３．艾谷遺跡　４．道成寺遺跡　５．鐘巻銅鐸出土地　６．舩田火葬墳墓　７．土生Ａ遺跡　８．土生Ｂ遺跡　９．法徳寺遺跡　10．小熊遺跡　15．吹上古墳群　38．菅原城跡　41．東郷遺跡　42．土生城跡

【御坊市】
　(10)．阪東丘古墳群　(11)．富安Ⅰ窯跡　(12)．富安岡遺跡　(13)．鳳生寺山墳墓　(14)．鳳生寺山古墳群　(15)．亀山銅鐸出土地　(16)．朝日谷遺跡　(17)．亀山遺跡　(18)．亀山城跡　(19)．亀山古墳群　(20)．八幡山古墳群　(21)．富安Ⅰ遺跡　(22)．津井切遺跡　(23)．小松原Ⅰ遺跡　(24)．小松原Ⅱ遺跡　(25)．湯川氏館跡　(27)．蛭田坪遺跡　(29)．東郷遺跡　(30)．海士王子跡　(31)．愛徳山王子跡　(32)．丸山古銭出土地　(78)．八幡山城跡　(81)．富安城跡

【史跡】
　(214) 亀山城跡【県指定史跡】
　(216) 熊野参詣道【国指定史跡】、(243) 道成寺境内【国指定史跡】

ことから、この場所に道成寺とほぼ同時期に古代寺院が存在しており、それが『日本国現報善悪霊異記』下巻第三十三縁に記載がある「別寺」の可能性が指摘されている。

【中世以降】室町時代南北朝期に築かれたと伝えられる (78)．八幡山城跡のほか、室町幕府の奉公衆であり、周辺一帯で勢力をふるっていた湯河氏の築いた (25)．湯川氏館跡や (18)．亀山城跡などが周囲に展開している。

第２節　既往の調査（図２）

東郷遺跡は御坊市と旧川辺町の境界付近で工事中に甕や壺、高坏などの弥生土器が発見されたことで明らかとなった遺跡である。

昭和 55 年、御坊市水道事業所の北側で美浜町上水道水源地の建設工事に先立って御坊市より委託を受けた御坊市遺跡調査会が約 100 ㎡を発掘調査している。この調査では弥生時代後期の土坑や柱穴などが検出されており、弥生時代後期の土器や古墳時代の須恵器などが出土している。

その後、昭和 61 年度に市道駅前道成寺線の道路改良工事に伴って御坊市より委託を受けた御坊市遺跡調査会が発掘調査を実施している。この調査では 2,170 ㎡を調査しており、弥生時代中期から後期及び後期末から古墳時代前期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、溝、土坑などが検出されたほか、弥生土器や古墳時代の土師器、須恵器などが出土している。特に古墳時代前期に掘削されたとみられる大型の溝 SD-4 及び SD-25 は幅 6.0 ～ 7.0 m、深さ 1.8 ～ 2.4 m という大規模な灌漑用水路と考えられ、この溝より出土した土器の中には北部九州、中四国、尾張地方から搬入されたとみられる土器や格子叩きを持つ韓式系土器も出土している。

個人住宅建設に伴って平成 23 年度に御坊市教育委員会が実施した発掘調査が昭和 61 年度調査区の南隣接地で行われており、弥生時代中期から後期、古墳時代の竪穴建物跡や溝などを検出し、弥生土器や土師器、須恵器などが出土している。

これらの既往調査成果から、東郷遺跡においては弥生時代中期から人々の活動が認められており、特に古墳時代初頭においては他地域との活発な人的・物的な交流が行われていたことが明らかとなった。また、東郷遺跡における弥生時代から古墳時代前期の居住域は遺跡中央から南を中心として展開すると推定される。

【参考文献】

川辺町『川辺町誌　第１巻　通史編上』1988 年

御坊市『御坊市史　第３巻　史料編』1981 年

御坊市遺跡調査会『埋蔵文化財発掘調査概報』1981 年

御坊市遺跡調査会『東郷遺跡　埋蔵文化財調査報告第３集』1987 年

御坊市教育委員会『御坊市埋蔵文化財調査年報－平成 24 年度－』2013 年

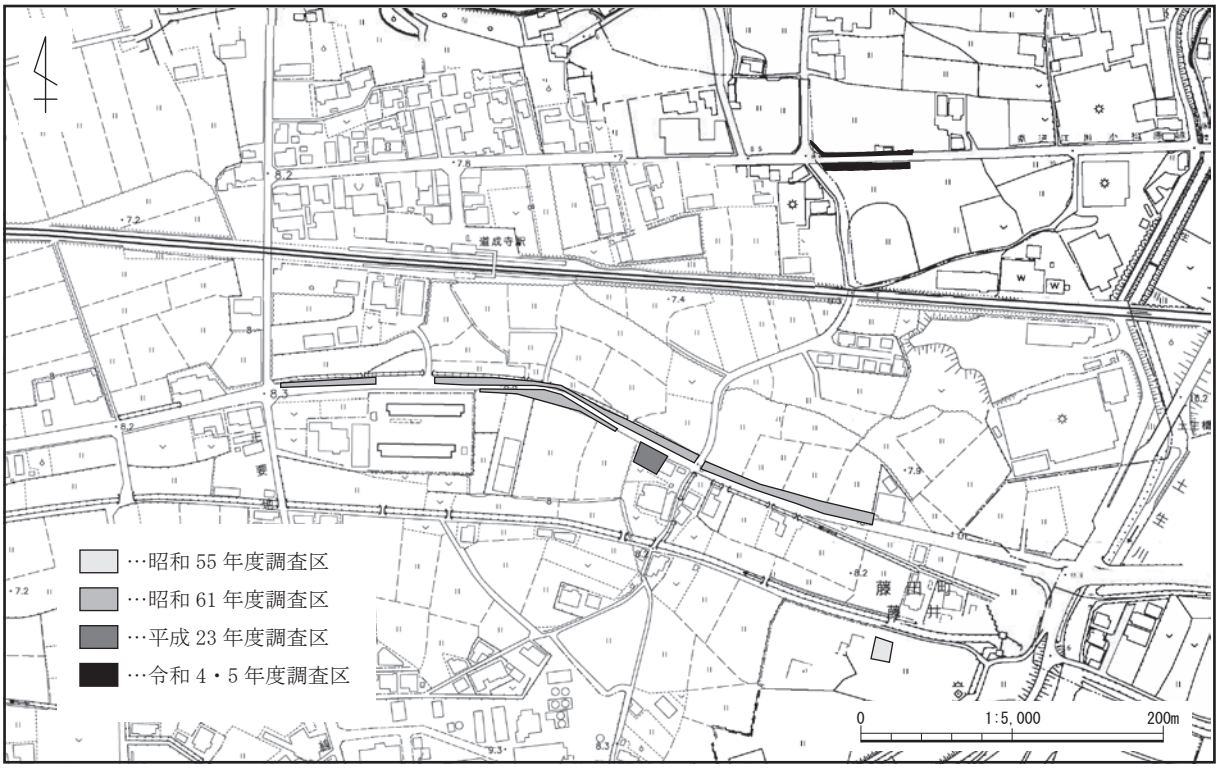


図２　既往調査位置図　　（日高川町及び御坊市提供地図に加筆）

第２章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

調査は、和歌山県により江川小松原線通学路緊急対策事業が計画され、事業予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である「東郷遺跡」内に位置していたことに起因する。令和４年７月 12 日付け日建道第 07120001 号で和歌山県知事より、和歌山県教育委員会（以下、県教育委員会という。）へ文化財保護法第 94 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知が行われ、これに対し令和４年７月 20 日付け文第 04010017 号の 25 で確認調査を必要とする旨の通知を県教育委員会が行った。その後、令和４年９月７日付け日建道第 09070001 号で和歌山県知事より確認調査の実施について依頼がなされ、県教育委員会は令和４年９月 14 日付け文第 09120001 号でこれを受諾し、江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う東郷遺跡確認調査を実施した。現地調査は令和４年 10 月 20 日、21 日の２日間で、合計５トレンチ約 29 ㎡の範囲で行われた。

その結果、県教育委員会により事業予定地については記録保存目的の本発掘調査が必要と判断され、和歌山県知事より県教育委員会へ発掘調査の実施について依頼があった。これを受けて公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、当センターという。）に県教育委員会より令和４年 10 月 31 日付け文第 10280001 号で実施計画書提出の依頼があり、令和４年 11 月７日付け和文セ第 216 号でこれを提出した。

これにより、令和４年 11 月８日付け文第 10280001 号の２で当センターへ県教育委員会より和歌山県と委託契約を締結するよう依頼があり、令和４年 11 月 10 日付けで和歌山県と当センターとで「江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う東郷遺跡発掘調査業務」の契約を締結した。現地調査の契約期間は当初令和５年３月 31 日までであったが、江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う仮舗装や電柱移設等の作業のため、令和５年４月 28 日まで延長した。

第２節　発掘調査

１．発掘調査

契約後、当センターにおいて令和４年 11 月 11 日付け和文セ第 217 号で文化財保護法第 92 条第 1 項の規定に基づく発掘調査届出書を和歌山県地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 55 条第 1 項及び県教育委員会の事務処理の特例に関する条例第 2 条に基づき、日高川町教育委員会を経由して、県教育委員会に提出した。

発掘調査にあたって必要となる建設機械と作業員は、和歌山県より建設工事を請け負った株式会社坂本組から提供を受けた。

発掘調査は、令和４年 12 月５日から令和５年４月 11 日までで、一時仮舗装や電柱の移設のための休止期間を挟んで実施した。調査地は、昭和 61 年度に御坊市の市道駅前道成寺線の道路改良工事に伴う発掘調査が行われた地点から北に約 200 ｍの地点にあたる。調査面積は 372.0 ㎡である。

県教育委員会による確認調査の成果から、現在の水田耕作土・床土を機械掘削、それ以下を人力掘削とした。調査により確認した遺構面１面で、遺構の平面実測図・断面実測図及び土層断面図等

を作成した。調査地区隣接地を排土置き場として使用し、道路を挟んで南側を１区、北側を２区として各区ごとに調査を実施した。江川小松原線通学路緊急対策事業の工事工程上、発掘調査後の埋戻し作業は実施せず、令和５年４月 11 日に現地調査を終了した。

２．現地公開

調査期間中の令和５年４月 10 日には、調査成果を県民に見ていただくため、現地公開を実施した。現地公開には近隣住民を中心に 42 名に参加していただいた。

遺構掘削

現地公開

第３節　出土遺物等整理業務

１．出土遺物応急整理

出土遺物については、時期決定を行い、調査方法の判断資料とするため当センター事務局整理棟において応急的な洗浄作業を実施し、出土遺物台帳の作成作業を実施した。また、現場で撮影した中判デジタルカメラ及び 35㎜ フルサイズデジタルカメラの RAW データはリネーム後、適切なデジタル現像を行い、TIFF データに書き出して保管した。現地調査の遺構等の記録図面は、地区別・図面種別などの区分を行い図面ファイルに収め、応急的な整理を実施した。

２．出土遺物等整理業務

発掘調査で出土した遺物の整理及び調査報告書の作成について、令和５年度に出土遺物整理業務を「江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う東郷遺跡出土遺物整理業務」として和歌山県より受託した。契約期間は令和５年４月 28 日から令和６年１月 31 日である。

出土遺物整理業務は発掘調査で出土した遺物全点を対象に行った。遺物の登録・注記・接合・補強・実測等の一連の作業を行うとともに遺物観察表の作成、現地で記録した遺構実測図等の整理を行い、遺物実測図の作成と共にデジタルトレース作業を実施し、これらを組版して図面原稿を作成した。また、現場で撮影した遺構写真等について整理を実施し、遺物写真を撮影するとともに主要な遺構写真とともに組版を行い、写真図版を作成した。これら一連の作業を踏まえて原稿執筆を行った。

業務は令和５年５月から実施し、令和６年１月に本書を刊行するに至った。

第３章　調査方法

第１節　地区割（図３）

調査区の地区割は、平面直角座標系（平成 14 年度国土交通省告示第９号）第Ⅵ系（世界測地系）を使用し、遺跡を網羅する北東に基点（Ｘ＝ -231,000 ｍ、Ｙ＝ -75,000 ｍ）を設け、その点から西及び南にむかって大区画・小区画を設けて区割を行った。大区画は基点をＡ１地点と定めて、西方向へ 100 ｍごとにＢ、Ｃ、Ｄ…、南方向に２、３、４…という軸を設定した１辺 100 ｍ四方の区画で、北東隅の地区名を用いてＡ１、Ｃ３などと呼称する。大区画の北東隅をａ１地点として、そこから４ｍずつ西方向へｂ～ｙ、南方向へ２～ 25 とそれぞれの方向に 25 分割し、一辺４ｍの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からａ１区～ｙ 25 区と呼称する。地区名は、大区画－小区画（Ａ１- ａ１区など）で表す。今回の調査区は、大区画で１、２区ともにＪ４の範囲内に、小区画ではｂ６～ｓ 11 の範囲内に位置する。

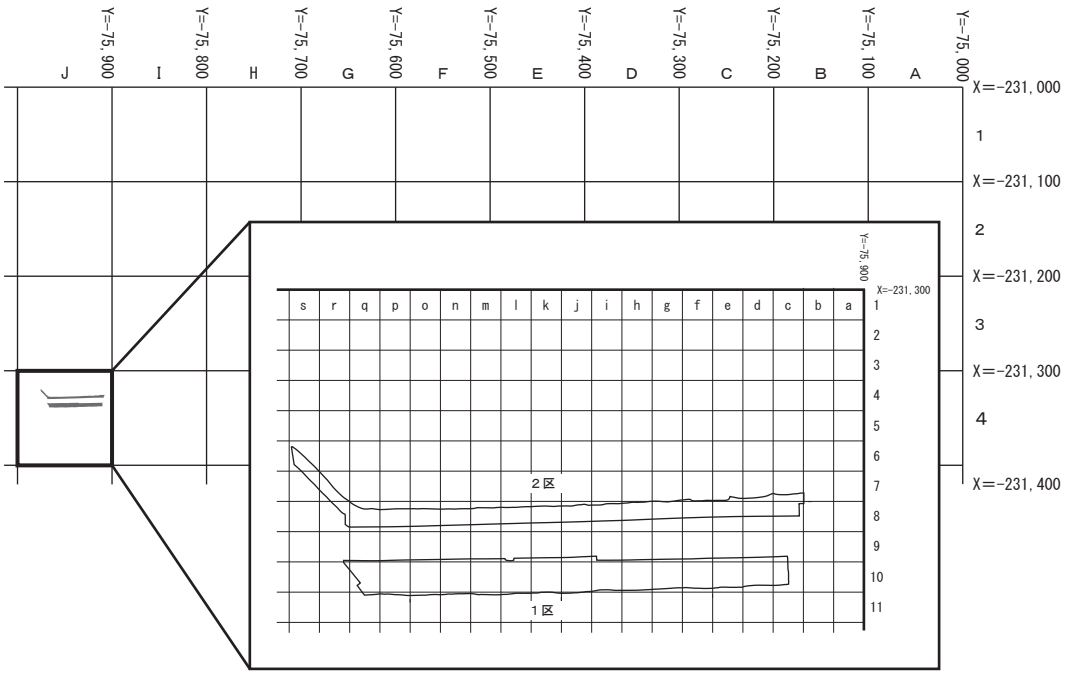


図３　地区割図

第２節　調査現場の記録作業等

発掘調査は、遺物包含層より上を建設機械による掘削で、遺物包含層以下を人力掘削で進めた。また、状況に応じ、下層確認トレンチを設定し、遺構面以下の土層堆積状況を確認した。

記録は、写真撮影と実測図面作成を行った。写真撮影については、中判デジタルカメラ及び 35㎜フルサイズデジタルカメラを使用し、デジタル画像データ（RAW データ及び JPEG データ）には全てファイル毎に撮影内容を記載して保存している。記録図面は、縮尺１：20 の遺構実測図（遺構平面図・断面土層図）及び遺構位置全体図を作成したほか、１区・２区とも調査地区の北・南壁土層断面図及び必要に応じて各壁面の土層断面図などを記録として作成した。

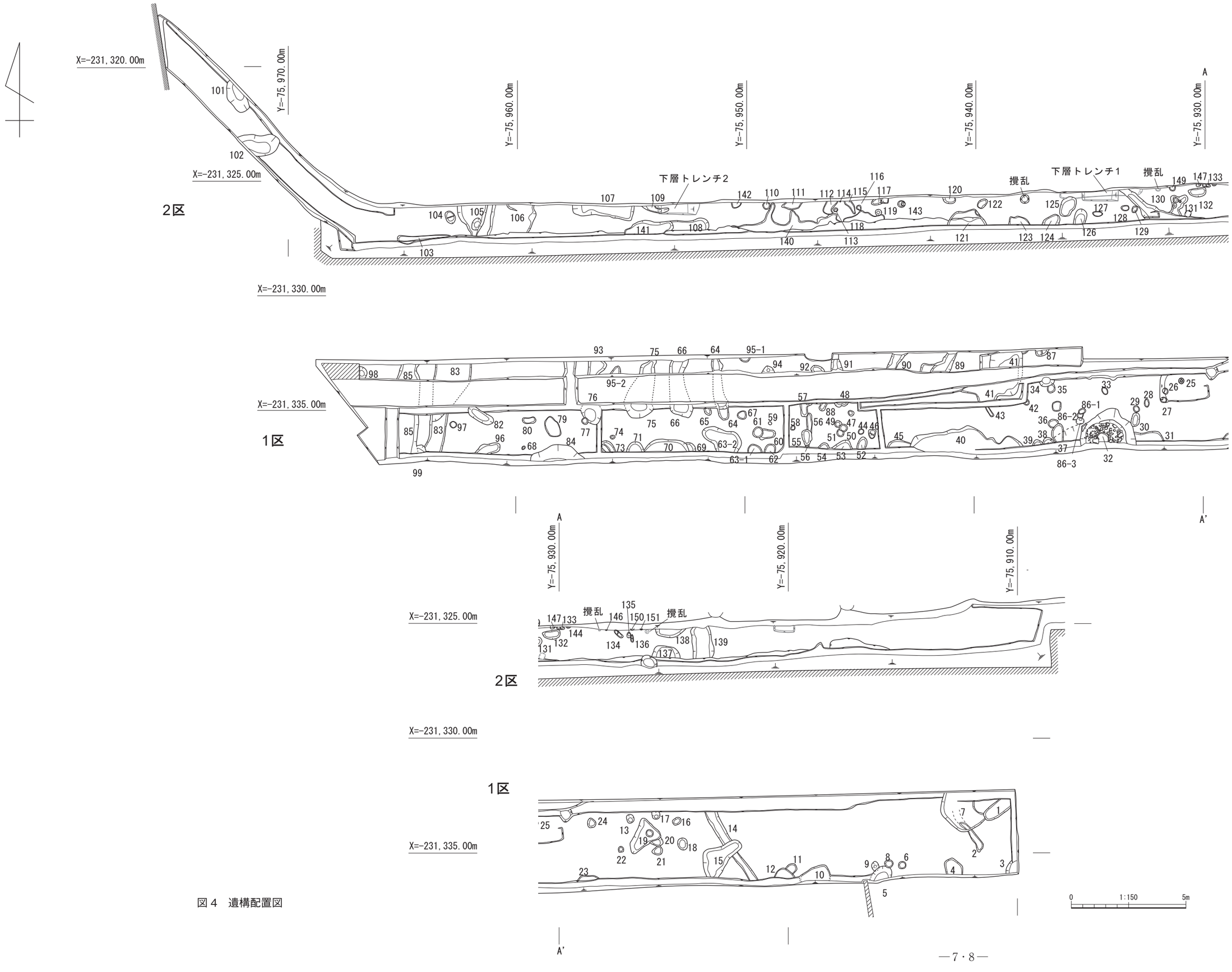

X=-231,320.00m
Y=-75,970.00m
Y=-75,960.00m
Y=-75,950.00m
Y=-75,940.00m
Y=-75,930.00m
A
A'
X=-231,325.00m
X=-231,330.00m
X=-231,335.00m
2区
1区
下層トレンチ2
下層トレンチ1
撹乱
撹乱
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
140
141
142
143
147
149
93
75
66
64
95-1
94
92
91
90
89
41
87
98
85
83
95-2
76
57
48
88
56
49
47
44
46
43
42
34
35
33
86-1
29
28
26
25
27
36
86-2
30
31
38
39
37
86-3
32
40
45
50
51
52
53
54
55
58
59
61
67
65
64
63-1
63-2
62
60
73
74
71
70
69
68
84
77
79
80
82
97
96
99
A
A'
Y=-75,930.00m
Y=-75,920.00m
Y=-75,910.00m
X=-231,325.00m
X=-231,330.00m
X=-231,335.00m
2区
1区
撹乱
撹乱
135
147
133
144
132
131
134
146
150
151
136
138
137
139
25
24
13
17
16
19
20
18
22
21
23
14
15
12
11
10
9
8
6
7
1
2
3
4
5
0
1:150
5m

図４　遺構配置図

表 1　遺構一覧表

遺構番号	大区画	小区画	種類	形状	長さ	幅	深さ	出土遺物	遺構図	遺物番号	備考
1	J4	c9・10	溝or土坑	直線状	(1.37)	0.60	0.23				
2	J4	c10	溝	直線状	(1.35)	0.30	0.17	焼石 1			
3	J4	c10	土坑	円形?	(0.52)	(0.50)	0.06				
4	J4	d10	溝or土坑	不整形	0.76	(0.70)	0.10				
5	J4	e･d10	土坑	楕円形	(0.60)	0.80	0.31				
6	J4	d10	ピット	円形	0.33	0.33	0.13				
7	J4	d･c 9･10	土坑	不整形	(2.00)	1.40	0.23				
8	J4	d10	ピット	円形	0.37	0.35	0.17				
9	J4	e10	ピット	楕円形	(0.27)	0.32	0.18				
10	J4	e10	土坑	不整形?	(1.35)	(0.70)	0.14				
11	J4	e10	ピット	円形?	(0.29)	0.44	0.20				
12	J4	f･e10	土坑	円形?	0.92	(0.44)	0.18				
13	J4	g10	ピット	楕円形	0.36	0.31	0.16				
14	J4	f10	溝	直線状	(3.60)	0.50	0.19		図 11		139 溝と同一遺構か
15	J4	f10	土坑	不整形	(1.90)	1.10	0.30				
16	J4	g10	土坑	楕円形	0.39	0.30	0.14				
17	J4	g10	ピット	不整形?	0.31	0.34	0.21				
18	J4	g10	土坑	楕円形	0.52	0.43	0.17				
19	J4	g10	土坑	不整形	1.46	1.15	0.28				
20	J4	g10	土坑	不整形	(2.30)	0.40	0.22				
21	J4	g10	ピット	不整形	0.46	(0.33)	0.15				
22	J4	g10	ピット	不整形	0.25	0.24	0.12				
23	J4	h･g10	土坑	円形?	(0.20)	(0.94)	0.08				
24	J4	h10	ピット	楕円形?	0.42	0.39	0.19				
25	J4	h10	ピット	円形	0.26	0.24	0.14				
26	J4	h10	ピット	楕円形	0.28	0.25	0.16				
27	J4	h10	ピット	円形	0.27	0.25	0.04				
28	J4	i10	ピット	楕円形	0.36	0.21	0.12				
29	J4	i10	ピット	円形	0.26	0.27	0.09				
30	J4	i10	ピット	楕円形	0.60	0.35	0.16				
31	J4	i10	土坑	不整形	(1.10)	0.42	0.13				
32	J4	i10	土坑	楕円形	(1.70)	3.80	0.86		図 7		
33	J4	i10	ピット	楕円形	0.35	0.24	0.05				
34	J4	j10	土坑	円形?	(0.65)	(0.37)	0.17				
35	J4	j10	ピット	円形?	0.36	(0.31)	0.10				
36	J4	j10	ピット	円形?	0.43	(0.29)	0.13				
37	J4	j10	土坑	楕円形?	(0.71)	0.53	0.11				
38	J4	j10	ピット	円形?	(0.49)	(0.24)	0.08				
39	J4	j10	ピット	円形?	(0.46)	(0.23)	0.10				
40	J4	k･j10	土坑	不整形	(4.98)	(1.20)	0.28				
41	J4	k･j10	土坑	不整形	(2.45)	(2.04)	0.25				
42	J4	j10	ピット	円形?	0.24	(0.17)	0.05				
43	J4	j10	溝	直線状	(0.43)	0.15	0.08				
44	J4	l10	ピット	楕円形	0.25	0.24	0.04				
45	J4	k10	土坑	楕円形?	(0.32)	(0.87)	0.07				
46	J4	l10	ピット	不整形	0.4	0.32	0.13				
47	J4	l10	ピット	楕円形	0.22	0.25	0.14				
48	J4	l10	土坑	不整形	(0.60)	(0.17)	0.13				
49	J4	l10	ピット	円形	0.32	(0.21)	0.12		図 9		
50	J4	l10	ピット	円形	0.32	0.35	0.13				
51	J4	l10	ピット	円形	0.32	(0.21)	0.13				
52	J4	l10	土坑	楕円形	(0.54)	0.39	0.19				
53	J4	l10	土坑	不整形?	(0.81)	(0.38)	0.11				
54	J4	l10	土坑	不整形?	(0.50)	(0.24)	0.10				
55	J4	l10	土坑	楕円形	0.70	0.42	0.14				
56	J4	l10	溝	直線状	(1.47)	0.25	0.13				
57	J4	l10	土坑?	不整形	(0.55)	(0.52)	0.10				
58	J4	l･m10	ピット	楕円形	0.22	0.20	0.09				
59	J4	m10	ピット	円形	0.15	0.14	0.10				
60	J4	m10	土坑	不整形	(0.47)	0.50	0.13				
61	J4	m10	土坑	楕円形	0.46	0.45	0.07				
62	J4	m10	土坑	楕円形	0.48	(0.40)	0.06				
63-1	J4	m10	土坑	楕円形?	0.60	(0.38)	0.12				
63-2	J4	m10	土坑	不整形	1.78	(0.90)	0.11				
64	J4	m9･10	溝	直線状	2.11	0.48	0.24				
65	J4	m9･10	ピット	楕円形?	(0.25)	0.28	0.06				
66	J4	n9･10	溝	ゆるいカーブ	(2.45)	1.00	0.32				
67	J4	m10	ピット	円形	0.40	0.38	0.06				
68	J4	o10	ピット	円形	0.16	0.18	0.09				
69	J4	n･m10	土坑	円形	(0.23)	0.40	0.12				
70	J4	n10	土坑	楕円形?	(1.85)	(0.54)	0.14				
71	J4	n10	土坑	楕円形?	(0.45)	(0.78)	0.09				
73	J4	n10	溝	カーブ状	(0.62)	0.25	0.08				
74	J4	n10	ピット	楕円形	0.21	0.16	0.08				
75	J4	n9･10	溝	ゆるいカーブ状	(2.60)	1.15	0.90				
76	J4	o10	土坑	楕円形?	(0.65)	(0.60)	0.20				
77	J4	o10	ピット	円形	0.31	0.30	0.07				
79	J4	o10	土坑	楕円形	0.60	0.27	-				
80	J4	o10	土坑	不整形	0.60	0.27	0.07				
82	J4	p10	土坑	楕円形	(1.15)	0.44	0.26				
83	J4	p10	溝	直線状	(1.64)	1.56	0.05		図 11		106 溝と同一遺構か
84	J4	o10	土坑	不整形?	(2.05)	(0.69)	0.25				
85	J4	q10	溝	直線状	(1.60)	0.80	0.1		図 11		105 溝と同一遺構か
86-1	J4	i10	ピット	楕円形	0.32	0.22	0.09				
86-2	J4	i10	ピット	楕円形?	0.27	(0.13)	0.09				
86-3	J4	i10	ピット	楕円形	0.35	0.28	0.12				
87	J4	j9	土坑	楕円形?	0.60	(0.24)	0.21				
88	J4	l10	土坑	不整形	(0.34)	(0.25)	0.07				
89	J4	k9･10	溝or土坑	不整形	(1.00)	(1.26)	0.34				
90	J4	k9･10	溝	直線状	(0.80)	0.65	0.31				
91	J4	l9･10	溝	直線状	(0.56)	0.50	0.20				
92	J4	l10	土坑	楕円形?	(0.30)	0.42	0.27				
93	J4	o9･10	溝or土坑	不整形	(0.60)	0.80	-				
94	J4	m10	土坑	不整形	(0.22)	(0.50)	0.19				
95	J4	m9	土坑	不整形	(0.18)	(0.46)	0.10				
95-1	J4	n10	土坑	楕円形	(0.34)	0.44	0.11				
95-2	J4	m9	土坑	不整形	(0.18)	(0.46)	0.10				
96	J4	p10	溝or土坑	溝状	(0.90)	0.50	0.18				
97	J4	p10	ピット	円形	0.31	0.29	0.09				
98	J4	q10	土坑	楕円形?	(0.30)	(0.50)	0.15				
99	J4	p･q10	土坑	不整形?	(0.34)	(0.34)	0.16				
101	J4	s7	土坑	楕円形	(1.44)	(0.64)	0.64		図 7		
102	J4	s･r7	土坑	楕円形	(1.60)	1.26	0.20		図 7		
103	J4	q8	土坑	不整形	2.32	(0.22)	0.18				
104	J4	p8	土坑	楕円形	0.57	0.40	0.09				
105	J4	p8	溝	直線状	(1.30)	1.82	0.18		図 11		85 溝と同一遺構か
106	J4	p･o8	溝	直線状	(1.34)	1.34	0.14		図 11		83 溝と同一遺構か
107	J4	o･n8	土坑	方形状	(2.68)	0.61	0.40				
108	J4	n8	土坑	不整形	(1.60)	(0.52)	0.09				
109	J4	n8	溝	カーブ状	(0.96)	0.35	0.19				
110	J4	m8	ピット	円形	0.34	(0.29)	0.19				
111	J4	m･l8	土坑	不整形	0.73	(0.33)	0.09				
112	J4	l8	土坑	溝状	(0.62)	0.44	0.10				
113	J4	l8	ピット	円形	0.18	0.17	0.08				
114	J4	l8	ピット	円形	0.06	(0.05)	0.06				
115	J4	l8	溝	カーブ状	(0.62)	0.28	0.09	土師器 3			
116	J4	l8	ピット	不整形	0.20	0.25	0.12				
117	J4	l8	土坑	楕円形	(0.43)	(0.25)	0.07				
118	J4	l･k8	土坑	不整形	(1.80)	(0.45)	0.14				
119	J4	l8	ピット	円形	0.25	0.27	0.13				
120	J4	k8	土坑	楕円形	0.54	(0.27)	0.03				
121	J4	k･j8	土坑	楕円形	(1.72)	(0.71)	0.20	土師器 2	図 8	図 12-3	実測遺物は混入か
122	J4	j8	土坑	楕円形	0.48	0.34	0.05		図 8		
123	J4	j8	土坑	不整形	(0.94)	(0.30)	0.09				
124	J4	j8	土坑	不整形	(0.72)	(0.35)	0.20				
125	J4	j･i8	土坑	楕円形	0.92	0.63	0.23				
126	J4	i8	土坑	楕円形	(0.51)	(0.59)	0.22				
127	J4	i8	ピット	楕円形	0.43	0.22	0.02				
128	J4	i8	ピット	楕円形	0.34	0.23	0.08				
129	J4	i8	ピット	楕円形	0.32	0.24	0.06				
130	J4	i･h8	溝	カーブ状	(2.40)	0.62	0.16				
131	J4	h8	土坑	不整形	(0.90)	0.65	0.17				
132	J4	h8	土坑	楕円形	0.75	0.40	0.14				
133	J4	h8	ピット	楕円形	0.14	(0.14)	0.10				
134	J4	q8	土坑	楕円形	0.47	0.16	0.39				
135	J4	q8	ピット	楕円形	0.24	0.18	0.18				
136	J4	q8	ピット	楕円形	0.17	0.13	0.09				
137	J4	q8	土坑	楕円形?	(1.20)	(0.38)	0.34				
138	J4	q8	土坑	楕円形?	(1.36)	(0.40)	0.20		図 8		
139	J4	g･f8	溝	直線状	(1.20)	0.92	0.46		図 11		14 溝と同一遺構か
140	J4	m･l8	土坑	不整形	(4.84)	(1.26)	0.27	土師器 2			
141	J4	n8	土坑	不整形	2.10	(0.59)	0.19	土師器 2			
142	J4	m8	ピット	楕円形	(0.43)	(0.25)	0.08				
143	J4	k8	ピット	円形	0.33	0.30	0.16				
144	J4	h8	ピット	円形?	(0.19)	(0.07)	0.07				
146	J4	h8	ピット	円形?	(0.09)	0.06	-				
147	J4	h8	ピット	円形?	0.21	(0.12)	0.09				
149	J4	h8	ピット	楕円形?	(0.29)	(0.20)	0.04				
150	J4	q8	ピット	楕円形?	(0.16)	(0.06)	0.13				
151	J4	q8	ピット	円形	0.10	(0.06)	-				

※ 72・78・81・100・145・148 は欠番

第４章　調査の成果

第１節　調査概要

１・２区を通して土坑、溝、柱穴、小穴等の遺構を検出した。これらの遺構からは出土遺物が極めて少ないが、遺構面の上層にあたる遺物包含層から古代や中世の遺物が出土していることから、遺構面の年代は中世以前の可能性が高いと考える。遺構の埋土はいずれも基本層序第５層に近似するが、含有物に若干の差異が認められる。

検出した遺構の中には１・２区にまたがる同一遺構と考えられるものが含まれるため、１・２区を分けずに説明する。

第２節　基本層序（図５）

調査地における基本層序は、県教育委員会の確認調査の成果を参考に現地にて次のように大別した。

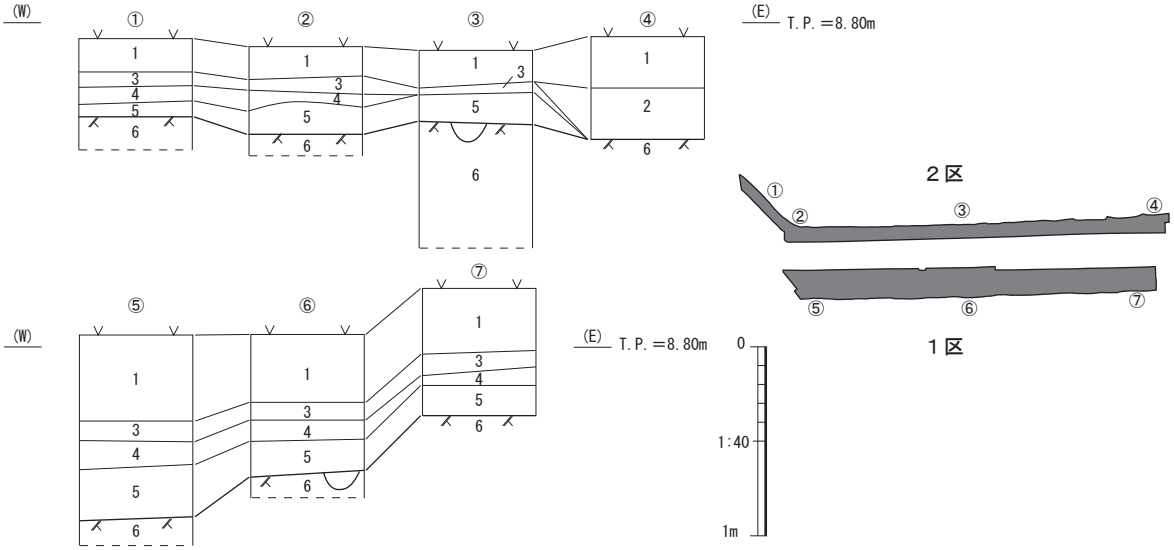


図５　基本層序

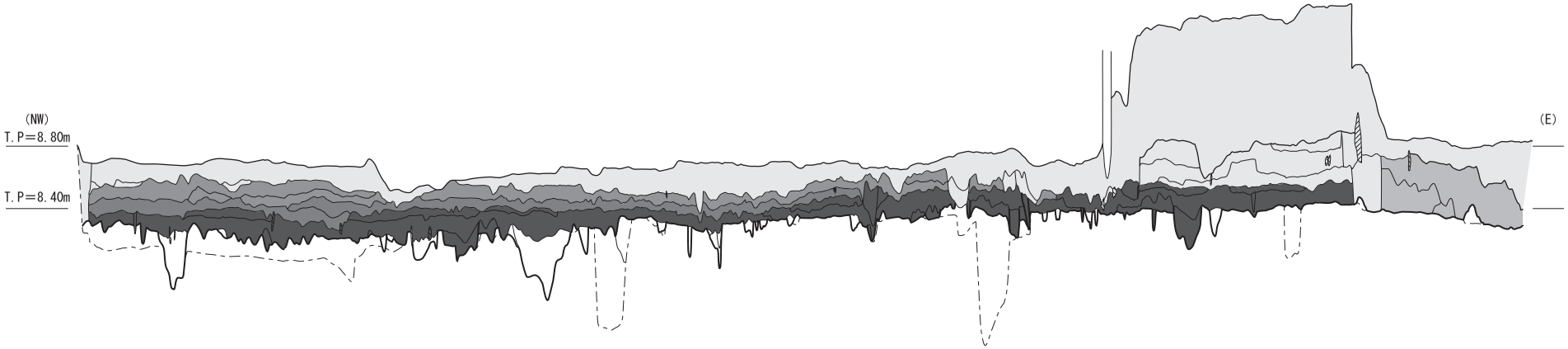
第１層：現代の水田耕作土及びその床土である。

第２層：２区東端でのみ確認した土層で、旧耕作土もしくは耕作のために行われた整地層である。

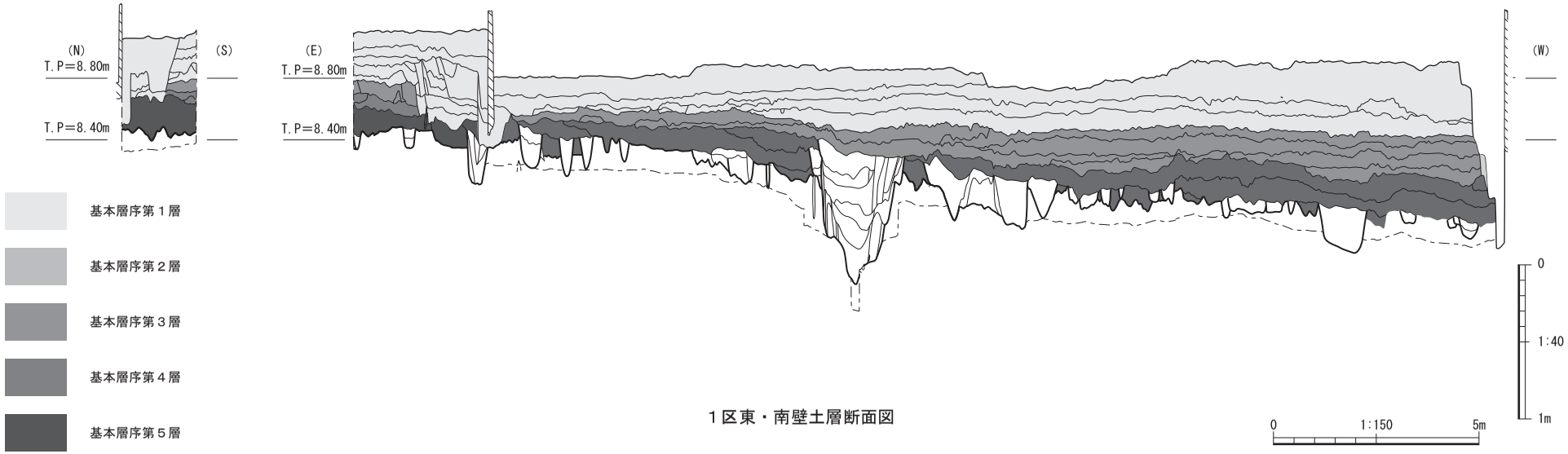
第３層：黄褐色～にぶい褐色のシルトを含む砂層で、弥生時代末から中世の遺物を含む。中世とみられる遺物が多く、中世以降に形成された土層とみられ、旧耕作土と考える。２区東端部など一部を除き調査区のほぼ全域で確認できる。

第４層：にぶい黄褐色のシルトを含む砂層で、弥生時代末から中世の遺物を含む。１区では比較的良好に遺存するが、２区では調査区中央部から東端部にかけ確認することができなかった。第３層と同じく中世以降に形成された旧耕作土と考える。

第５層：黒褐色のシルトを多く含み、やや粘質性の高い砂層である。古代から中世の遺物を含む遺物包含層である。含まれる遺物は第３層、第４層よりもやや少ないものの、遺存状態については比較的良好なものが確認できる。２区東端部以外の調査区全域で確認した。



２区北壁土層断面図



１区東・南壁土層断面図

図６　１・２区土層断面図

全体的に締まりがなく、小礫を含み、その土質から調査地周囲が一時的に低地として滞水していた可能性を示す。

第６層：明褐色から黄褐色のシルトを含む砂層で無遺物層である。調査区周辺における基盤層と考えられ、円礫を多く含む土層とシルト質を多く含む土層に分層でき、２区では下層確認トレンチの土層堆積状況から、円礫を多く含む土層がシルト質を多く含む土層の下へもぐりこんでいく状況が確認できた。また調査区の西にいくにつれ、粗砂を多く含むようになる。この層の上面が遺構面である。

第３節　遺構と遺物

【土坑】

32 土坑（図７、写真図版１・２）　１区中央南壁付近で検出した土坑で、遺構の重複関係から 31 土坑より新しく、30 土坑、37 土坑、38 土坑、86-3 土坑、39 土坑よりも古い。いずれの遺構からも遺物が出土していないため、遺構の詳細な年代については不明である。東西長 3.80 m、南北軸の検出長 1.70 m、平面形状はやや歪な楕円形で、一部は調査区外南へ続く。断面形状は緩やかな逆三角形状で深さは 0.86 m。礫の多い地山下層まで掘り込まれている。

101 土坑（図７、写真図版２・３）　２区西端で検出した土坑で検出長軸 1.44 m、検出短軸は 0.64 m、平面形状は南北方向に延びる楕円形状とみられ、一部は調査区外北東に続く。断面形状はやや歪な船底形で深さ 0.38 mである。出土遺物はなかった。

102 土坑（図７、写真図版２・３）　２区西端で検出した土坑で検出長軸 1.60 m、短軸 1.26 m、平面形状は楕円形とみられ、一部は調査区外西へ続く。断面形状は船底形で深さは 0.20 mである。出土遺物はなかった。

121 土坑（図８、写真図版３）　２区ほぼ中央部の南壁付近で検出した土坑で、検出長軸 1.72 m、検出短軸 0.68 m、平面形状はやや歪な楕円形とみられ、一部は調査区外南へ続く。断面は北から南にかけて下がる形状で、深さは 0.20 mである。古墳時代及び中世の土師器が出土している。

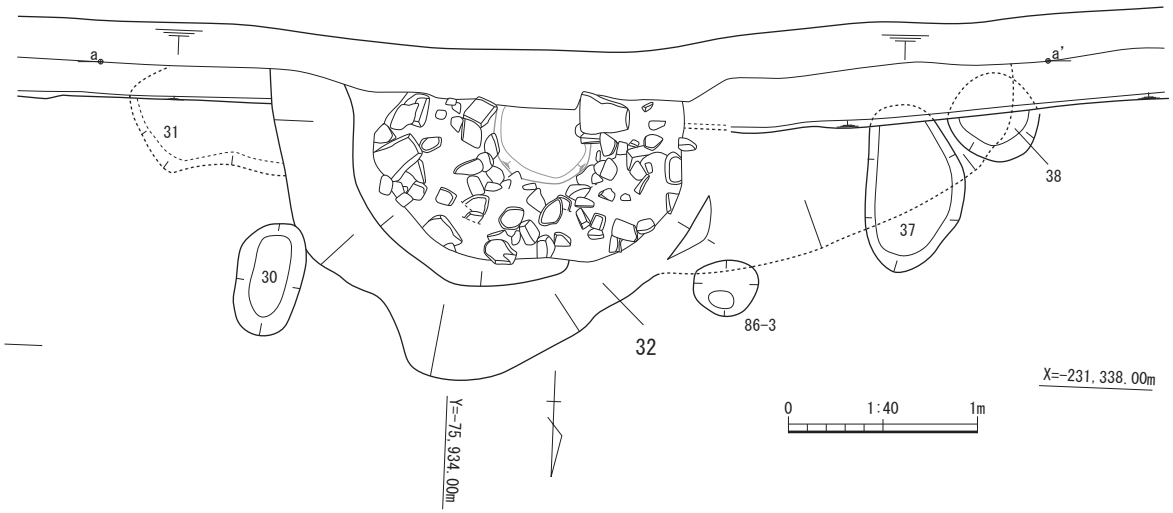
138 土坑（図８、写真図版４）　２区東部北壁付近で検出した土坑で、検出長軸 1.36 m、検出短軸 0.40 m、平面形状は楕円形とみられ、一部は調査区外北へ続く。断面形状はやや歪な船底形で深さ 0.20 mである。出土遺物はなかった。

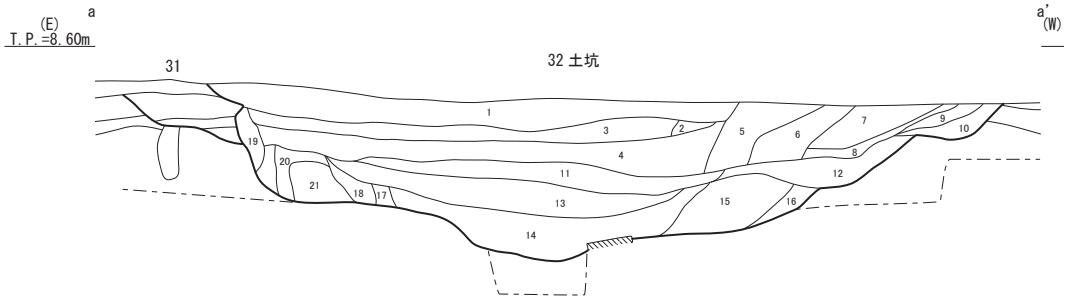
【溝】

14（139）溝（図 11、写真図版４・５）　１区東部の 14 溝と２区東部の 139 溝は同一遺構の可能性が高いと考える。14 溝の検出長は 3.60 m、幅 0.30 ～ 0.50 m、断面形状は浅い船底形、139 溝の検出長は 1.20 m、幅 0.88 ～ 0.92 m、断面形状は歪な台形状で深さ 0.46 mである。両者が同一遺構とすると南北方向に 12.00 m以上延びる溝と考えられる。出土遺物はなかった。

83（106）溝（図 11、写真図版６・７）　１区西部の 83 溝と２区西部の 106 溝は同一遺構の可能性が高いと考える。83 溝の検出長は１区北部で 0.78 m、南側で 1.64 m、幅 0.58 ～ 1.56 mと北に向けて幅が広がる。深さは 0.05 mと浅い。106 溝は検出長 1.30 m、幅 1.74 ～ 1.82 m、深さ 0.18 mである。両者が同一遺構とすると南北方向に 11.40 m以上延びる溝と考えられる。出土遺物はなかった。

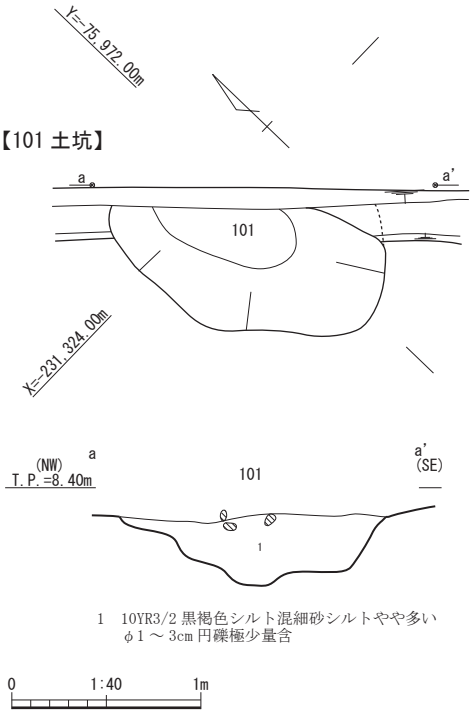
【32 土坑】





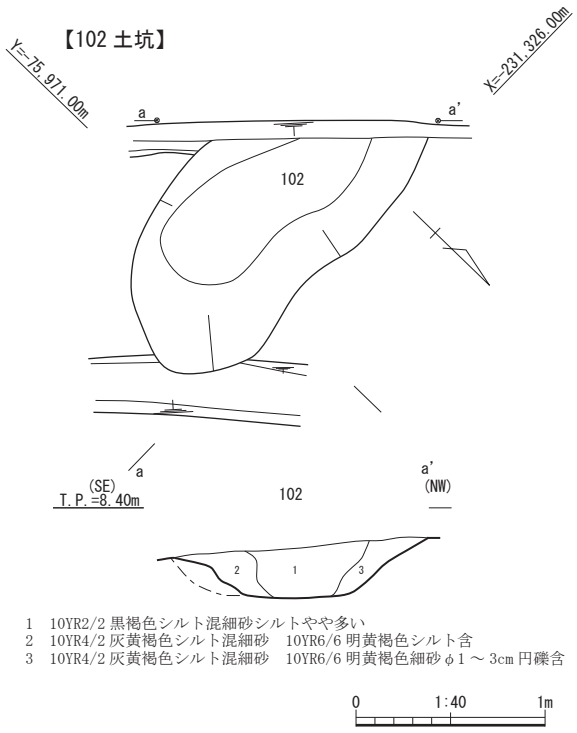
【32 土坑】
1　10YR2/2 黒褐色粘質シルト混細砂
2　10YR3/2 黒褐色粘質シルト混細砂しまりゆるい
3　10YR2/2 黒褐色粘質シルト混細砂しまりややゆるい
4　10YR2/2 黒褐色粘質シルト混微砂粘性強い
5　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混細砂マンガン含
6　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混細砂マンガン・鉄分含
7　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト混細砂マンガン含
8　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト混粘質シルト
　細砂混じる・マンガン含
9　10YR2/2 黒褐色粘質シルト混微砂
10　10YR3/2 黒褐色粘質シルト混粗～細砂
11　10YR3/4 暗褐色粘質シルト
12　10YR3/2 黒褐色粘質シルト混細砂粘性やや強い
13　10YR2/2 黒褐色粘質シルト混細砂
14　10YR2/2 黒褐色粘質シルトしまりあり
15　2.5Y5/2 暗灰黄色粘質シルト混細砂 鉄分含
16　10YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルト混細砂 鉄分含
17　10YR3/3 暗褐色粘質シルト混細～粗砂 地山ブロック含
18　10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト混細砂 マンガン・地山ブロック含
19　10YR3/2 黒褐色粘質シルト混細砂
20　10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト混細砂（地山ブロック）
21　10YR3/2 黒褐粘質シルト混細砂

【101 土坑】



1　10YR3/2 黒褐色シルト混細砂シルトやや多い
　φ1 ～ 3cm 円礫極少量含

【102 土坑】



1　10YR2/2 黒褐色シルト混細砂シルトやや多い
2　10YR4/2 灰黄褐色シルト混細砂　10YR6/6 明黄褐色シルト含
3　10YR4/2 灰黄褐色シルト混細砂　10YR6/6 明黄褐色細砂φ1 ～ 3cm 円礫含

図 7　土坑実測図 1

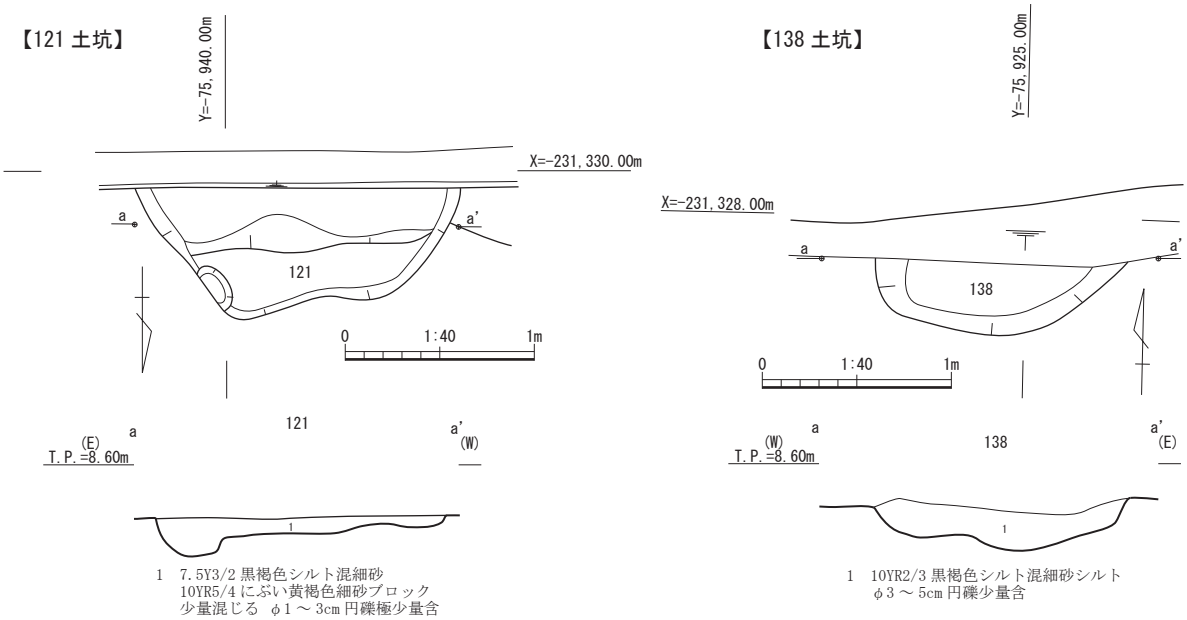


図８　土坑実測図２

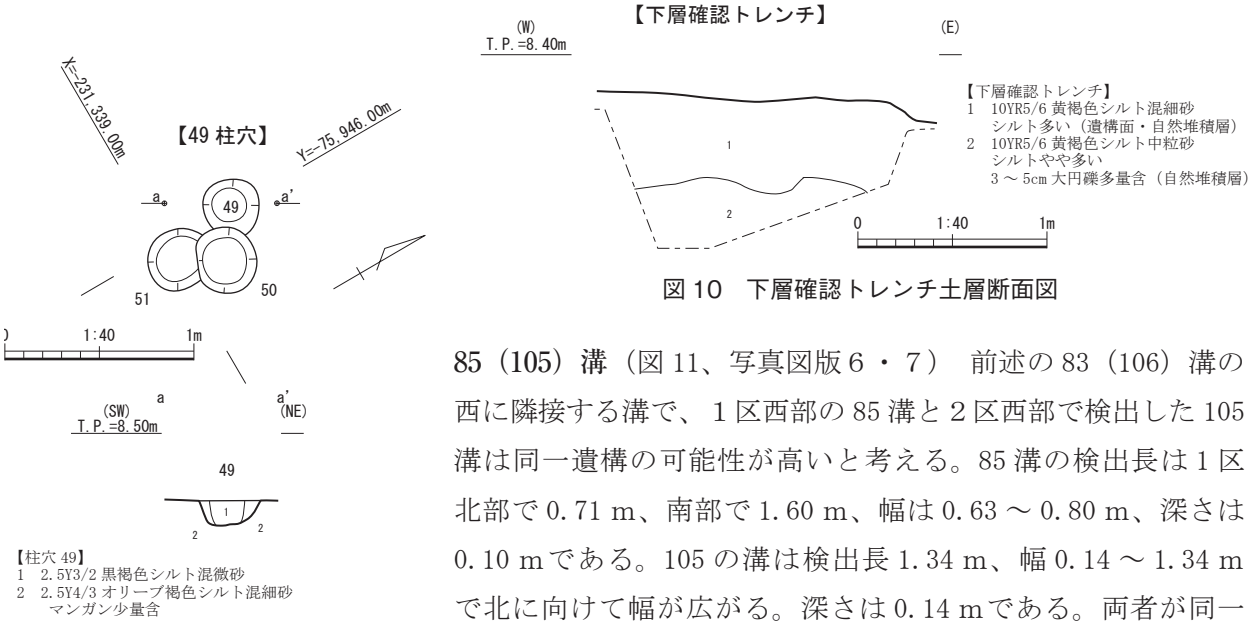


図９　柱穴実測図

図 10　下層確認トレンチ土層断面図

85（105）溝（図 11、写真図版６・７）　前述の 83（106）溝の西に隣接する溝で、１区西部の 85 溝と２区西部で検出した 105 溝は同一遺構の可能性が高いと考える。85 溝の検出長は 1 区北部で 0.71 m、南部で 1.60 m、幅は 0.63 ～ 0.80 m、深さは 0.10 mである。105 の溝は検出長 1.34 m、幅 0.14 ～ 1.34 m で北に向けて幅が広がる。深さは 0.14 mである。両者が同一遺構とすると南北方向に 11.80 m以上延びる溝と考えられる。出土遺物はなかった。

【柱穴・小穴】

49 柱穴（図９、写真図版７）　１区中央部で検出した柱穴で、遺構の前後関係から小穴 50 よりも古い。径 0.52 ～ 0.56 m、深さ 0.12 mで土層断面の観察から柱根跡が確認できるが、調査区が狭小で他に柱穴を確認できていないことから、建物等に伴う柱穴かどうかは不明である。出土遺物はなかった。

【下層確認トレンチ】（図 10、写真図版７）

２区において遺構面以下の土層堆積を確認するためにトレンチを設定し、掘削した。その結果、遺構面である黄褐色のシルトをベースとした地山と更にその下層に円礫を多く含む土層を確認した。

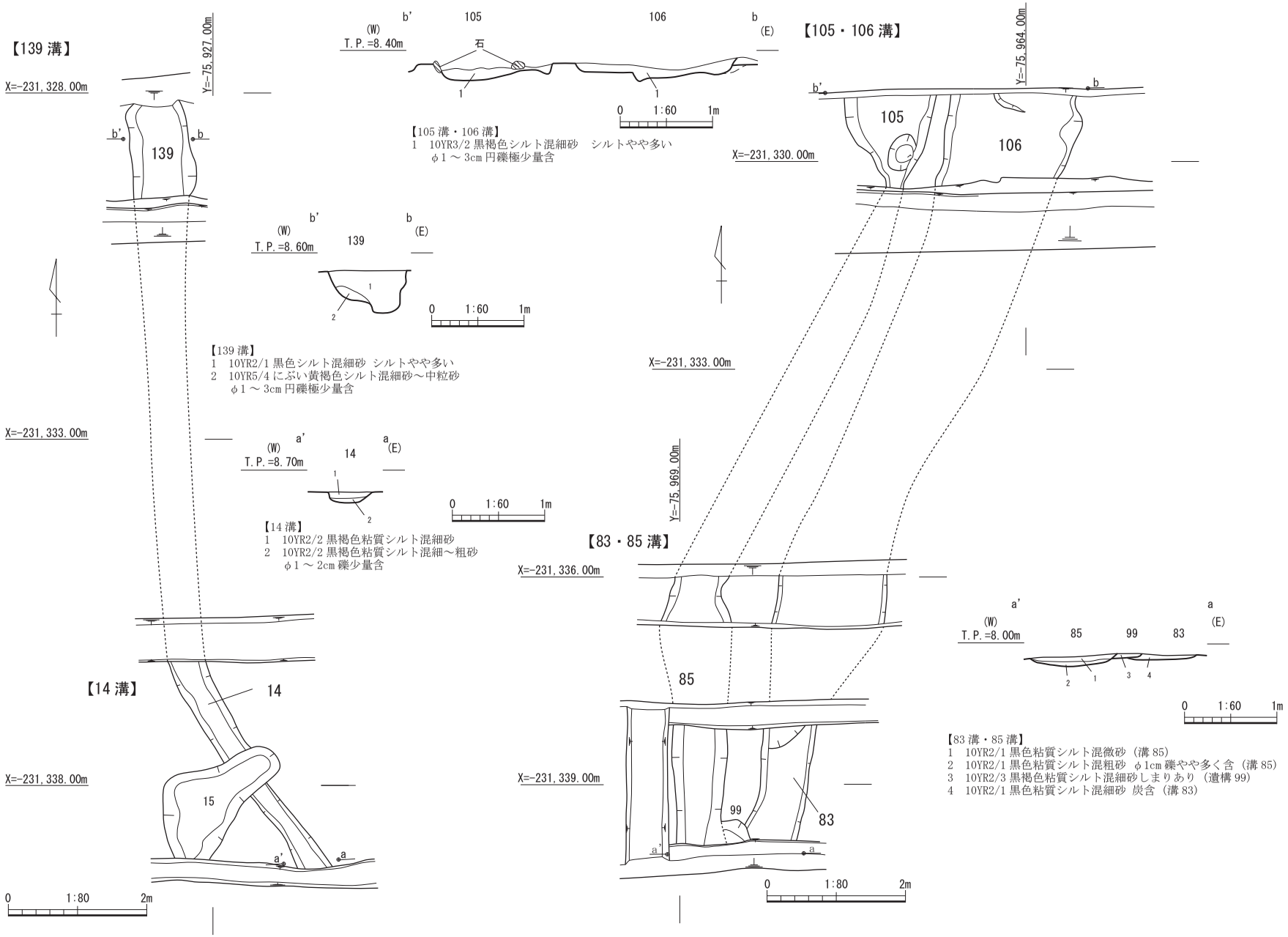

【139 溝】
X=-231,328.00m
Y=-75,927.00m
139
b'
b
X=-231,333.00m
【139 溝】
1　10YR2/1 黒色シルト混細砂　シルトやや多い
2　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混細砂～中粒砂
φ1 ～ 3cm 円礫極少量含
(W)
T.P.=8.70m
a'
14
a
(E)
0　1:60　1m
【14 溝】
1　10YR2/2 黒褐色粘質シルト混細砂
2　10YR2/2 黒褐色粘質シルト混細～粗砂
φ1 ～ 2cm 礫少量含
【14 溝】
14
15
X=-231,338.00m
0　1:80　2m
(W)
T.P.=8.40m
b'
105
106
b
(E)
石
0　1:60　1m
【105 溝・106 溝】
1　10YR3/2 黒褐色シルト混細砂　シルトやや多い
φ1 ～ 3cm 円礫極少量含
(W)
T.P.=8.60m
b'
139
b
(E)
0　1:60　1m
【105・106 溝】
Y=-75,964.00m
X=-231,330.00m
X=-231,333.00m
Y=-75,969.00m
【83・85 溝】
X=-231,336.00m
X=-231,339.00m
85
99
83
0　1:80　2m
(W)
T.P.=8.00m
a'
85
99
83
a
(E)
0　1:60　1m
【83 溝・85 溝】
1　10YR2/1 黒色粘質シルト混微砂（溝 85）
2　10YR2/1 黒色粘質シルト混粗砂　φ1cm 礫やや多く含（溝 85）
3　10YR2/3 黒褐色粘質シルト混細砂しまりあり（遺構 99）
4　10YR2/1 黒色粘質シルト混細砂　炭含（溝 83）

図 11　溝実測図

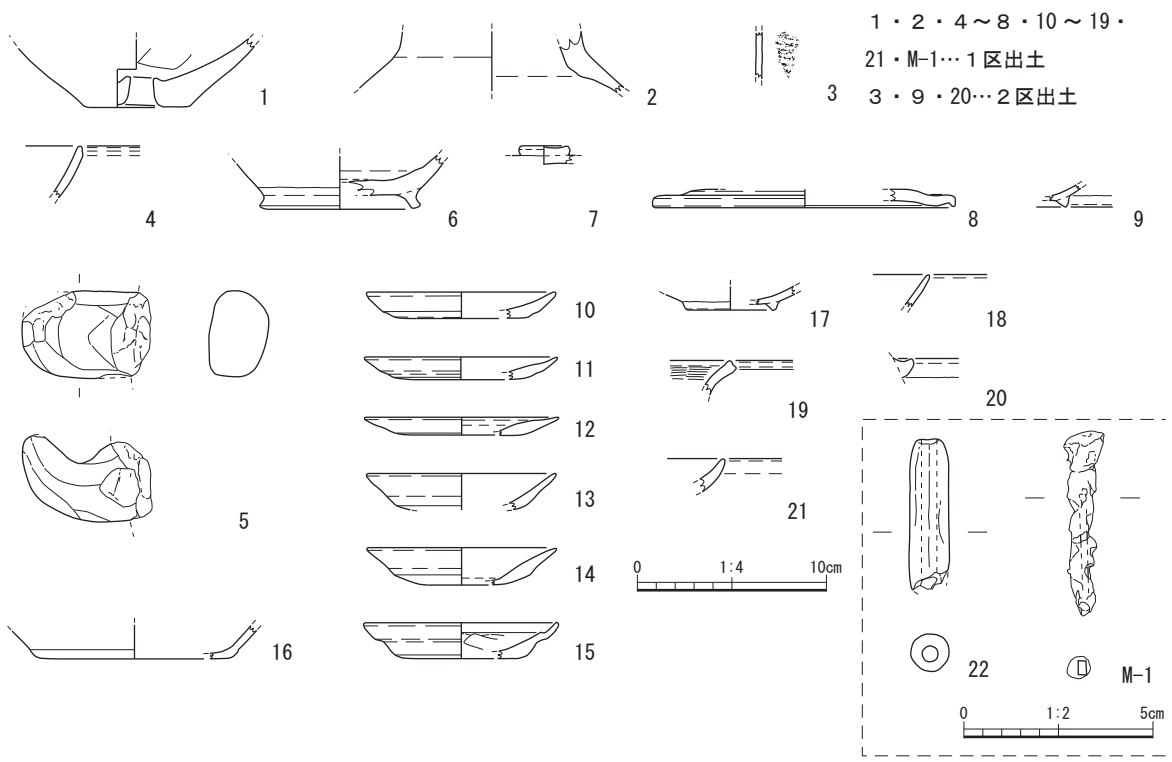


図 12　出土遺物

32 土坑においても円礫を多く含む土層を確認しており、東郷遺跡北東部において、遺構面下に同様の土層堆積があることが確認できた。

【出土遺物】（図 12、写真図版８・９）

弥生時代中期の弥生土器壷（１）は底部に焼成前穿孔が確認できる有孔壷とみられ、外面に黒斑が残る。弥生土器壷（２）は摩滅により調整不明瞭で肩上部と思われるが、詳細な時期については不明である。弥生時代末から古墳時代初頭の土師器の甕もしくは鉢とみられる（３）は外面にタタキが残る。古代の土師器坏（４）、鍋もしくは甑の把手（５）はいずれも摩滅により調整不明瞭で詳細な時期については不明である。

古代の須恵器壷（６）は貼り付け高台である。須恵器坏蓋（７・８）はいずれも奈良時代後半とみられる。古代の黒色土器（９）は内黒焼成の黒色土器Ａの椀底部とみられ、小さな高台が貼り付けられていることから 11 世紀後半と考える。

中世の土師器は小皿（10 ～ 15）と皿（16）に分類できる。10 ～ 12 は器高が低く、口縁端部がわずかに内湾する 10・11 と外反する 12 に分類できる。13 ～ 15 はやや器高が高く、体部から底部にかけて器壁が厚い。15 は口縁部が「ての字状口縁」の形状を呈しており、中世前半の土師器皿と考えるが、胎土・焼成が精緻であることから近世の可能性も残る。瓦器は椀（17・18）があり、17 は摩滅のため調整は不明瞭だが、貼り付け高台で高台断面は小さな逆三角形状を呈する。18 は椀の口縁部で、端部が直立するとみられる。中世の土師器（19・20）は鍋もしくは釜とみられる。国内産陶器の皿もしくは碗（21）は口縁部内外面に灰釉がみられ、唐津焼である可能性が高い。土製品として管状土錘（22）、金属器は釘（M-1）がある。釘は断面が方形で和釘とみられるが、時期は不明である。

第５章　まとめ

第１章でも述べたが、東郷遺跡は弥生時代から古墳時代の集落跡として知られる遺跡であり、既往調査では古代の遺構･遺物も確認されている。今回の東郷遺跡の発掘調査では１・２区を通して溝、土坑、柱穴、小穴等の遺構を検出した。これらの遺構からの出土遺物は極めて少ないが、遺構面の上層にあたる遺物包含層から中世の遺物が出土していることから、遺構の年代は鎌倉時代から室町時代以前の可能性が高いと考える。遺構の埋土はいずれも基本層序第５層に近似するが、含有物に基本層序第６層（地山層）のブロック土や小礫を含むなど、若干の差異が認められる。

これまでの既往調査の成果から、弥生時代から古代にかけての集落の中心は遺跡の中央部に展開するものと考えられる。既往調査で確認した時期と断定できる遺構は、今回調査区では確認できなかったため、弥生時代から古代にかけて、遺跡北東端周辺では、人々の活動は活発ではなかったと推定できる。

一方、中世の遺構と考えられる 32 土坑や 101 土坑などのように遺存状況のよい遺構が複数確認できたことから、今回の調査区が位置する遺跡北東端は中世になり人々の活動が活発化したと考えられる。しかし、掘立柱建物等、集落等に直接関係する遺構は確認できなかったため、中世における遺跡の中心地については調査区よりも西もしくは南側に展開する可能性が高い。

また、今回の調査区で検出した溝のうち、調査区東部で検出した 14（139）溝は、ほぼ同じ標高の遺構面に掘り込まれるものの、２区で検出した 139 溝の方が１区の 14 溝よりも掘削深度が深い。調査区周囲は北に低丘陵があり、日高川が流れる南に向かって緩やかに下がる状況であること、14（139）溝を検出した東側では検出した遺構数が激減すること、調査区北壁の土層断面の観察から遺物包含層が確認できなくなるなどの特徴があり、これらを踏まえると、14（139）溝は何らかの区画溝や排水用水路であった可能性が指摘できる。

表２　出土遺物観察表（土器・土製品）

※（　）は復元数値

報告書番号	実測番号	登録番号	地区	遺構層位	種類	器種	法　量 (cm)			残存率（部位）	形態・技法	胎土	焼成	色調	備　考
							口径	器高	底径						
1	16	41	第１区 J4 o9・10	第５層中	弥生土器	有孔壺か		3.6+	5.5	100% （底部）	内面、板状工具によるナデ、底部に焼成前穿孔あり、外面に黒斑あり、摩滅のため調整不明瞭	密　1 ～ 2mm の赤色酸化粒微量 1 ～ 2mm の灰色の小石多量	良好	内面：灰褐 外面：浅黄橙～にぶい橙	反転復元
2	17	41	第１区 J4 o9・10	第５層中	弥生土器か	壺		3.2+		5% 以下	摩滅により調整不明瞭	密　1mm 以下～ 1mm 位の赤色酸化粒微量 1mm 位の石英 (?) 微量	良好	内面：橙 外面：明赤褐 断面：褐灰	反転復元
3	24	60	第２区 j・k8	121 埋土	土師器	甕 or 鉢		2.5+		5% 以下	外面にタタキ、摩滅により内面の調整不明瞭	密　1mm 位の赤色酸化粒少量 1 ～ 2mm の石英少量	良好	内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 断面：褐灰	
4	13	38	第１区 J4 o9・10	第５層中	土師器	坏か		2.7+		5% 以下	内外面にナデか、摩滅により調整不明瞭	密　—	良好	内面：にぶい橙～浅黄橙 外・断面：浅黄橙	
5	4	11	第１区 J4 d9・10	第４層	土師器	鍋 or 瓶	長さ 6.7+	幅 4.6	厚さ 3.2	90% （把手）	摩滅により調整不明瞭	密　1 ～ 3mm の赤色酸化粒中量 1 ～ 2mm の石英少量 最大 3mm 大の片岩 (?) 少量	良好	内・外面：橙～灰白 断面：灰白～明褐	
6	14	38	第１区 J4 o9・10	第５層中	須恵器	壺か		2.8+	(7.6) （高台）	50% （高台部）	内外面に回転ナデか、貼り付け高台、摩滅により調整やや不明瞭	密　1mm 位の赤色酸化粒、黒色粒多量	軟	内面：灰白～灰白 外面：灰白 断面：灰白	反転復元
7	19	43	第１区 J4 q9・10	第４層中	須恵器	坏蓋	摘部 2.6	1.0+		90% （摘部）	内外面に回転ナデ、摘部貼り付け	密　細かい白色砂粒微量	良好	内・外面：灰白	一部反転復元
8	8	14	第１区 J4 j9・10	第５層中	須恵器	坏蓋	(15.8)	1.0+		5% （口縁部）	内外面に回転ナデ	密　細かい白色砂粒微量	良好	内・外面：灰白	反転復元
9	23	59	第２区	排土	黒色土器 A	椀か		1.2+		5% 以下	貼り付け高台、高台断面逆三角形、摩滅のため調整不明瞭	密　1mm 位の赤色酸化粒、石英少量	良好	内面：暗灰 外面：にぶい橙 断面：灰白	
10	6	12	第１区 J4 h9・10	第５層中	土師器	小皿	(10.0)	1.4	(7.0)	10% （口縁部）	内外面にヨコナデ、内面の一部及び外面下部～底部にユビオサエとナデ。口縁端部はやや内湾、底面平坦気味	密　—	良好	内面：にぶい橙 外面：灰白 断面：浅黄橙	反転復元
11	9	16	第１区 J4 k9・10	第３層中	土師器	小皿	(10.0)	1.2	(7.0)	5% 以下	内外面にヨコナデ、内外面底部はユビオサエとヨコナデ、口縁端部はやや内湾、底部はやや丸みを帯びるか	密　細かい白色砂粒微量	良好	内・外面：にぶい橙～浅黄橙 断面：浅黄橙～灰白	
12	10	17	第１区 J4 j9・10	第４層中	土師器	小皿	(10.1)	1.0	(7.0)	5% 以下	内外面にヨコナデ、内外面底部はユビオサエとヨコナデ、口縁端部は外反、底部はやや平坦気味か	密　—	良好	内面：灰白～浅黄橙 外面：灰白 断面：にぶい黄橙	
13	20	51	第１区 J4 ℓ 10	4 土坑周辺 第６層上面	土師器	小皿	(9.7)	2.0+	(7.0)	5% 以下	内外面にヨコナデ、内外面底部ユビオサエとヨコナデ、底部はやや丸みを帯びるか	密　1mm 位の赤色酸化粒少量	良好	内面：にぶい橙～浅黄橙 外面：淡橙 断面：にぶい橙	反転復元
14	15	39	第１区 J4 o9・10	第４層中	土師器	小皿	(9.8)	2.0	(4.4)	10%	内外面にヨコナデ、内外面底部にユビオサエとヨコナデ、体部厚い、底部はやや丸みを帯びるか	密　1mm 位の赤色酸化粒微量	良好	内・外面：灰白 断面：にぶい橙	反転復元
15	7	13	第１区 J4 i9・10	第５層中	土師器	小皿	(10.3)	1.9	(7.0)	5% 以下	内外面にヨコナデ、内面の一部及び外面下部～底部にユビオサエとナデ。底面平坦気味、底部厚く、口縁部は「ての字状口縁」か	密　—	良好	内面：浅黄橙 外面：にぶい橙 断面：浅黄橙	反転復元
16	12	38	第１区 J4 o9・10	第５層中	土師器	皿		1.8+	(10.2)	5% 以下	内外面にヨコナデ、内外面底部はユビオサエとヨコナデ、底部は平坦。口縁部に向かって直線的に開く	密　細かい赤色酸化粒少量	良好	内・外面：にぶい橙 断面：灰白	
17	18	42	第１区 J4 p9・10	第５層中	瓦器	椀		1.3+	(4.4)	5% 以下	貼り付け高台、高台断面逆三角形、摩滅のため調整不明瞭	密　—	軟	内・外面：灰白	反転復元
18	5	12	第１区 J4 h9・10	第５層中	瓦器	椀		1.7+		5% 以下	口縁端部から外面にヨコナデか摩滅により調整不明瞭	密　—	良好	内・外面：暗灰 断面：灰	
19	1	8	第１区 J4 d9・10	第３層	土師器	鍋か		1.2+		5% 以下	口縁部内外面にヨコナデ	密　1 ～ 3mm 位の石英少量	良好	内・外面：にぶい橙～橙 断面：明赤褐	
20	22	54	第２区	機械掘削 床土 ～包含層 1	土師器	鍋 or 釜		1.0+		5% 以下	外面にヨコナデ	密　細かい石英中量	良好	内・外面：橙～にぶい褐 断面：灰白～灰	
21	3	11	第１区 J4 d9・10	第４層	国内産 陶器	皿 or 碗		1.8+		5% 以下	口縁部内外面に灰釉か	密　—	良好	釉：灰 断面：灰白	
22	21	54	第２区	機械掘削 床土 ～包含層 1	土製品	土錘	径 1.0	長さ 4.0+		90%		密　1mm 以下の赤色酸化粒微量	良好	内・外面：灰白 断面：褐	管状土錘、 重量 4.82g

表３　出土遺物観察表（金属製品）

※＋は現状数値（復元数値が不明）

報告書番号	実測番号	登録番号	地区	遺構層位	種類	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 g	残存率 （部位）	備　考
M-1	2	9	第１区 J4 g9・10	第３層中	鉄製品	釘	4.9+	0.6+	+0.6	3.47	95%	和釘　時期不明

1　1区調査前（東から）

2　2区調査前(北西から)

3　32 土坑土層断面
（北から）

写真図版2

1　32 土坑周辺完掘状況
（南西から）

2　101 土坑土層断面
（西から）

3　102 土坑土層断面
（東から）

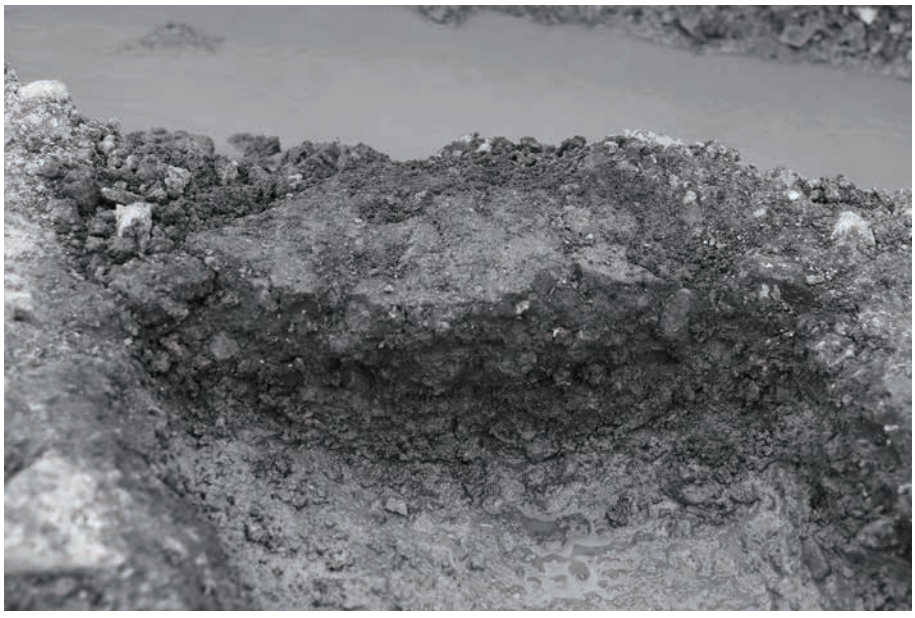
1　101・102 土坑完掘状況（北から）

2　121 土坑土層断面（北から）

3　121 土坑完掘状況（北西から）

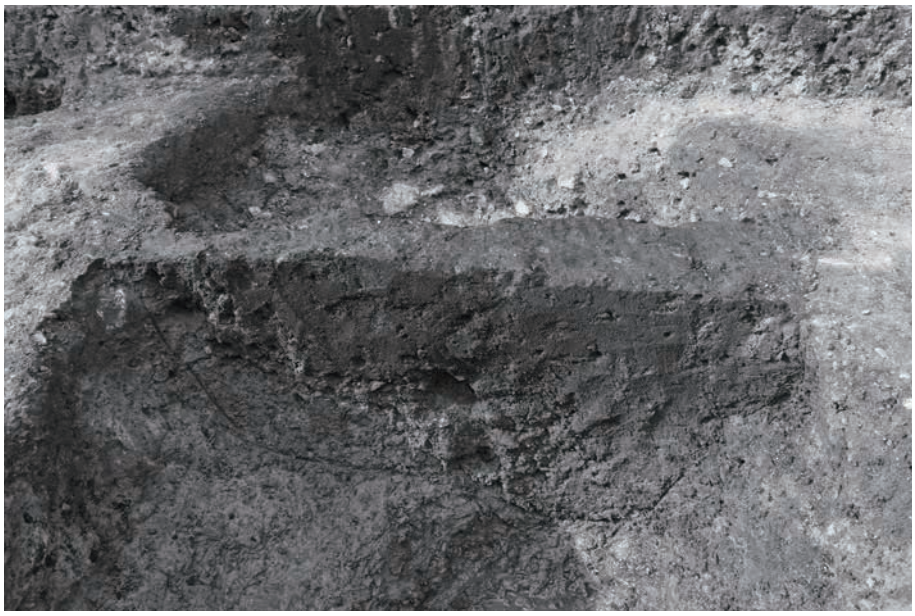
1　138 土坑土層断面
（南西から）

2　138 土坑完掘状況
（西から）



3　14 溝土層断面
（南から）

1　14 溝完掘状況
（南から）



2　139 溝土層断面
（南から）

3　139 溝完掘状況
（西から）

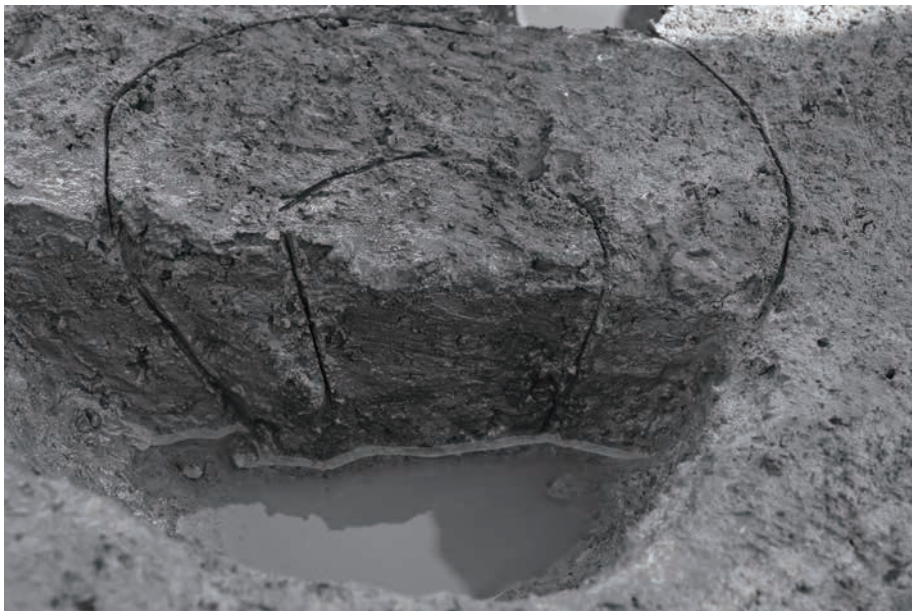
写真図版6

1　83・85 溝土層断面
（北から）

2　105 溝土層断面
（南から）

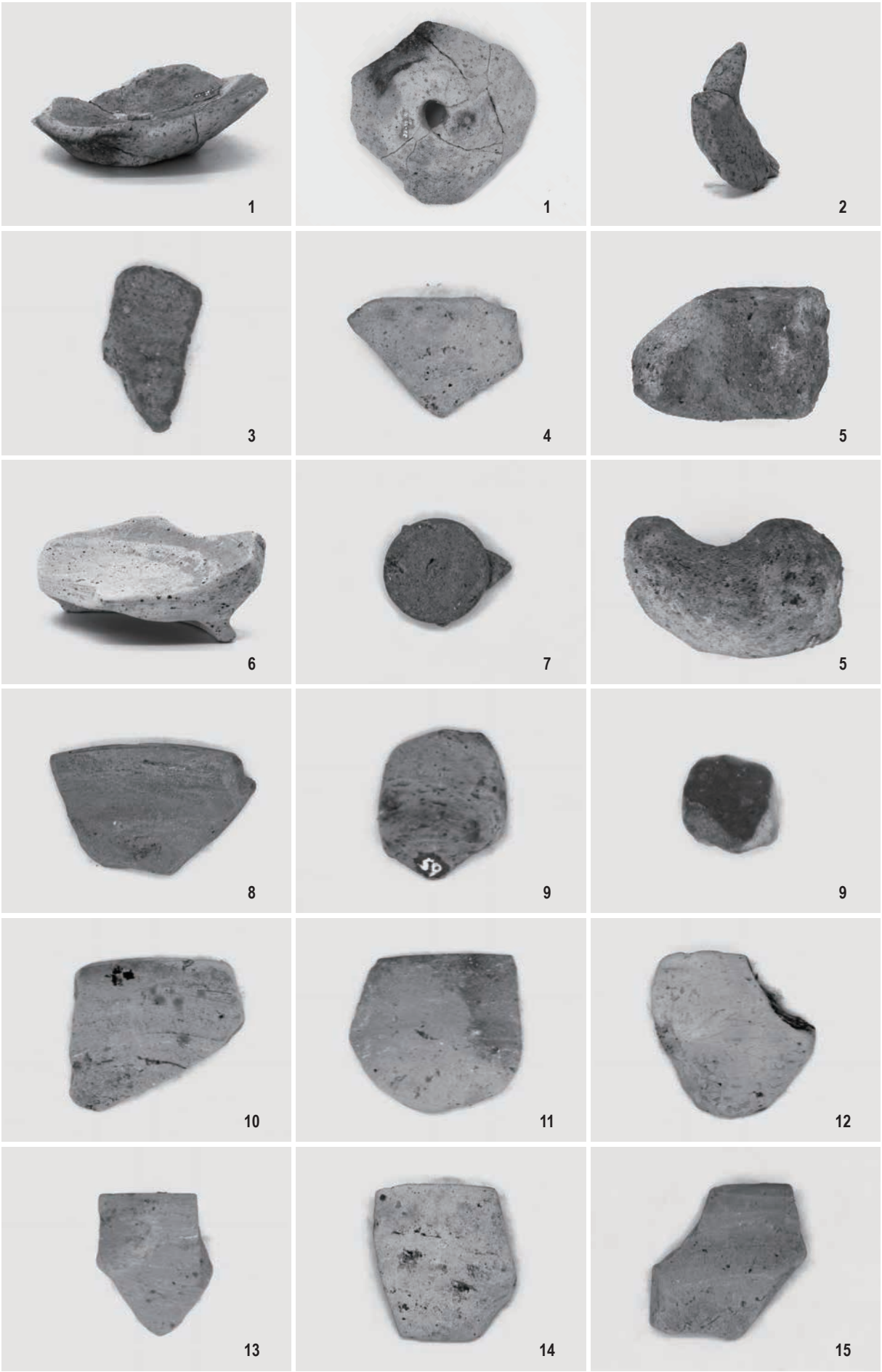
3　106 溝土層断面
（南西から）

1　105・106 溝完掘状況
（北西から）



2　49 柱穴土層断面
（北西から）

3　２区下層確認トレンチ
土層断面（南西から）

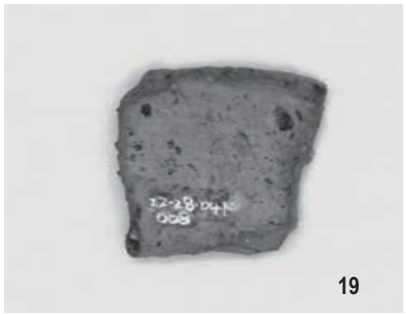


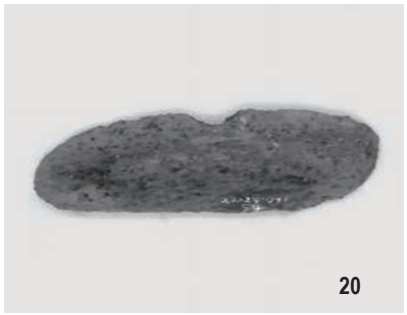
出土遺物（1）

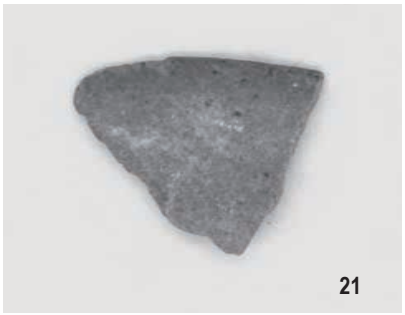
16

17

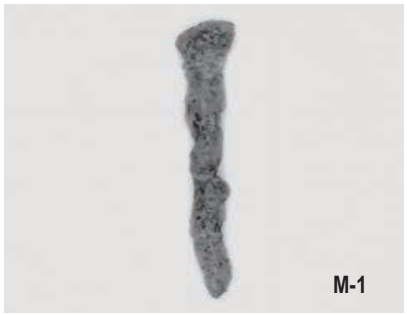
18


19


20


21

22


M-1

出土遺物（２）

報告書抄録

ふ り が な	とうごういせき
書　　名	東郷遺跡
副 書 名	江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う発掘調査報告書
巻　　次	―――
シ リ ー ズ 名	―――
シリーズ番号	―――
編 著 者 名	田之上裕子、濵﨑範子
編 集 機 関	公益財団法人　和歌山県文化財センター
所 在 地	〒640-8301　和歌山市岩橋1263番地の1　　TEL　073－472－3710
発 行 年 月 日	西暦2024年1月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とうごういせき 東郷遺跡	わかやまけん 和歌山県 ひだかぐんひだかがわちょうはぶ 日高郡日高川町土生 地内	303925	041	33° 54′ 42.34″	135° 10′ 43.02″	20221205 ～ 20230411	372.0	江川小松原線 通学路緊急 対策事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東郷遺跡	集落跡	古代～ 中世	土坑、溝、柱穴、 小穴	土師器・須恵器・黒色土器・ 瓦器・陶磁器	集落等の区画溝の可能性がある溝を検出した。

要約	東郷遺跡は弥生時代の集落跡として知られる遺跡であるが、今回の調査では当該時期の遺構は確認できなかった。一方で中世以前と考えられる土坑や溝、柱穴などを多数検出しており、周囲に集落があった可能性がある。また、南北に延びる溝を検出しており、溝の東側では遺構数が極端に少なくなることから、集落の区画溝等の可能性が考えられる。

東郷遺跡

－江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う発掘調査報告書－

発行年月日：2024年1月31日

編集・発行：公益財団法人　和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市岩橋1263番地の1

印刷・製本：株式会社 協 和
和歌山県海南市南赤坂5-3